

別記様式第1号（第4条関係）

木津川市地域連携保全活動協議会 開催結果の要旨

会 議 名	第5回 木津川市地域連携保全活動協議会		
日 時	平成25年7月23日（火） 午後3時から午後5時	場 所	市役所第2北別館 2階 会議室
出 席 者	委 員	■森本 幸裕（会長）、■深町 加津枝（副会長） ■長尾 輝冶、■田邊 英夫、■松岡 幸男、■岩井 照芳、 □吉田 博次（代理出席：筒井 康博）、■立花 志保、 ■吉村 文彦、 ■湯瀬 敏之、□木俣 知大、□武田 学、 ■平塚 正純、■尾崎 直利 ※□：欠席者	
	オブザーバー	環境省 近畿地方環境事務所 ■田村 省二、■中山 良太	
	事 務 局	尾崎課長、奥田補佐、茅早主査、栗本（ひょうご環境創造協会）	
議 題	1. 開会 2. 会長挨拶 3. 議事 （1）協議事項 木津川市地域連携保全活動計画中間案（骨子案）について ①第1章 保全活動計画策定の背景 第2章 策定する計画について ②第3章 地区の特色と活動 ③第4章 推進体制 4. 閉会		
審 議 結 果 要 旨	1. 開会 事務局より、開会を宣言した。 2. 会長挨拶 森本会長から、第5回木津川市地域連携保全活動協議会の開催にあたり、挨拶があった。 3. 議事 （1）協議事項 木津川市地域連携保全活動計画中間案（骨子案）について ①第1章 保全活動計画策定の背景 第2章 策定する計画について 事務局より、資料に基づき説明し、質疑応答を行った。		

	<p>②第3章 地区の特色と活動 事務局より、資料に基づき説明し、質疑応答を行った。</p> <p>③第4章 推進体制 事務局より、資料に基づき説明し、質疑応答を行った。</p> <p>4. 閉会 次回の協議会は、事務局より後日、通知することとした。</p>
<p>審議経過要旨</p>	<p>1. 開会 審議結果要旨のとおり。</p> <p>2. 会長挨拶 審議結果要旨のとおり。</p> <p>3. 議事 (1) 協議事項 木津川市地域連携保全活動計画中間案（骨子案）について ①第1章 保全活動計画策定の背景 第2章 策定する計画について 審議結果要旨のとおり。</p> <p>主な意見・質疑等は次のとおり。 (○…質疑・意見、→…質疑に対する返答)</p> <p>○今後の里山活動に活かすため、また自然環境調査資料を活用するにあたって、すべきことと、してはいけないこと等を教示いただきたい。 →環境保護、生態系の保護のために、マニュアルとまではいかないが、作成したい。</p> <p>○3頁の日本の動向で、生物多様性国家戦略2010とあるが、最新は生物多様性国家戦略2012-2020である。</p> <p>○世界の動向で、COP10とあるが、2012年にはCOP11も開催されている。 →追記し、修正する。</p> <p>○植物の調査結果や植生図の変化について、今後データを使えるような形で取りまとめていただきたい。里山では、動植物の環境が悪くなっているとあるが、その悪化はどこから読み取れるのか等を記述することで、データが生きてくると考える。</p>

また、「田園と里山」等の記載があるが、並列して記載すると、里山とは何か理解できない。本計画における「里山」の定義を明記するべきと考える。

○SATOYAMAイニシアチブ等から、国際的にも里山について共通の認識があると考えることから、山・森林だけを里山と捉えてはいけない。

○環境省では山林は里山林、田園などは里地里山といったように、区別している。

○本計画策定について、国の委託事業であることから、環境省に準じるべきであると考え。

→矛盾の無いよう記述する。

○オオタカに関して、これまでのURにおける調査などから得た知見があることや、開発などが紆余曲折した経緯など、ノウハウやオオタカに関する様々な蓄積がある。このようなオオタカの問題が、今回の里山の管理に大きく関わってくると考えることから、保全活動計画に明記するべきである。

○「鹿背山」の文言は、万葉集にもある。また、鹿背山の里山が構築されたのは、江戸時代と歴史は浅いかも分からないが、奈良の都づくりにおける材木の要所であった。こういった長い伝統もあることから、鹿背山の緑を守りたいといった記述としてはどうか。

→歴史的な里山の変遷について、ヒアリング等もおこない、充実させて記述したい。

○今後の保全活動について、市民にも積極的に活動してほしい。また、現在の高齢化社会から、高齢者にも活動に参画いただけるような計画としてはどうか。

②第3章 地区の特色と活動

審議結果要旨のとおり。

主な意見・質疑等は次のとおり。

(○…質疑・意見、→…質疑に対する返答)

○近年、鹿背山地区に猿が出ることもある。そういった問題も記述してはどうか。

○活動場所に行くための道が狭い。駐車場も無いことから、人を呼び込むための活動は難しいのが現状である。

○里山活動に係る事業を進めるためには、基盤整備も必要である。

→4章に記載しているが、市の役割として、拠点の整備、基盤の整備を記述している。

○個々の活動内容は記述しているが、全体としての里山管理に関する活動を記載すべきと考える。

→URの所有地について、寄附の申し入れがあり、受け入れることで調整している。土地を受けただけでなく、管理ができるもの、または活用できるような形で受けたいと考えている。URによる事業は今年度末で終了することから、その後、市がUR業務を引き継ぐ形でと考えている。

○本鹿背山地域は、自然環境面からオオタカが住みやすい場所であるということ considering、どうすれば人間が活動しやすいか等、管理をしやすい整備を考える必要があるではないか。市道もそういった蓄積の結果であると考えるが、使いやすいライン（道）や、カスミサンショウウオなどの保護部分、そして水路を戦略的に選択し、目標・計画を策定すべきである。

○これは、記載しないと実現できないと考えることから、本計画に記載をお願いする。

→これまでの意見を否定することはないが、本計画は、里山保全活動計画の策定を目的としており、整備を目的としていないと考える。基盤の整備は重要であるが、保全活動の内容や手法を優先して記載したい。

③第4章 推進体制

審議結果要旨のとおり。

主な意見・質疑等は次のとおり。

(○…質疑・意見、→…質疑に対する返答)

○里山を使用しなくなったことに伴い、様々な悪影響が出てきて、それを元に戻すことが本計画の目的であるならば、伐採木など事業で生まれてくる資源をゴミとせず、再利用するなど意味のあるものにするべきである。しかし、伐採木を置いておく場所が無く、団体は事業を縮小せざるを得ない現状がある。公共施設にペレットボイラーなどを設置するなどし、資源として活用できるようにしてはどうか。これは、ボランティアでは無理であるので、ぜひ行政に取り組んでもらいたい。

→今後の活動について基盤整備の他、ボランティアだけでは出来ないこともある。例として、伐採木の処分方法など、行政がお手伝いしなければならぬと考えている。そのため、次年度には、本地区の課題等に対する新たな部署を設置し、活動団体と共に取り組んで参りたいと考えている。

○地域の資源を持続的に利用することで、里山保全目標が達成されると考える。今後、市所有地となると、そこにある資源を持ち出すことは禁じられるが、その場所で生産された資源を継続的に生活に使っているかが大切と考える。そのような条例や協定等を施行・締結することが大切である。

	<p>○長期目標に「地域資源の利用」を入れてはどうか。 →16頁の計画の達成に向けた活動として、恵みを得る活動を記載している。</p> <p>○進行管理における評価について、里山活動は施行錯誤の上で成り立つものである。失敗もあり、即時に答えは出ない。進行管理については、次に繋がる形としてはどうか。</p> <p>○「順応的管理」または「アダプティブマネジメント」といった言葉を記載してはどうか。 →評価をし、市から活動を押し付けるのではなく、活動の動機付けといった形で実施したいと考えている。</p> <p>○里山保全活動はすぐに結果が出るという内容でない。20年・30年先を見据えて活動をするべきと考える。 また、現状では、生活環境の変化からか、地元の間人ですら、鹿背山に詳しくない。地元の鹿背山区民の里山に対する関心を高める必要があると考える。</p> <p>○最近、活動場所ですラ枯れを確認した。至急に対応すべきであるが、直径1mもある大木の伐採は、素人では無理である。業者に委託すると多額の資金が必要である。さらには、搬出する車まで持ち出すことも困難である。府においても、補助制度など拡充していただきたい。 →地域力再生プロジェクトには、森林組合からの申請もあることから、地域のネットワークを作り、そのような補助制度も活用し、継続して事業が進むようにしてはと考える。</p> <p>4. 閉会 次回の協議会は、事務局より後日、通知することとした。</p>
<p>その他特記事項</p>	<p>随行者7人</p>